

室蘭・北海道の可能性へ

ひと・まち・じぶんと未来を拓く北海道創生

果敢に挑戦!



北海道議会議員

ちば英也ひでや

さん

ちば英也さんのプロフィール

- 昭和44年3月8日 室蘭市生まれ。46歳
- 昭和62年 室蘭工業高等学校卒業
- 平成 4年 札幌大学経済学部卒業後、札幌市内電気設備工事会社に入社
- 平成 5年 (株)耕電設入社・専務取締役就任
- 平成 8年 (株)耕電設代表取締役就任
- 平成27年 北海道議会議員に初当選(1期目)、(株)耕電設特別顧問就任
- 現在 道議会総合政策常任委員、同産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員、同議会運営委員、自民党道連副幹事長、同広報副委員長、同選挙対策副委員長、同総務会常任総務、同政務調査会委員

- ◆趣味/登山、読書
- ◆好きな食べ物/室蘭やきとり、カレーライス
- ◆座右の銘/積小為大
- ◆血液型/O型



▲むろらん港まつりに参加し堀井学衆議院議員、青山剛室蘭市長とともに鏡開き



◀▼議会中は連日勉強会や意見交換会に積極的に参加



ちば英也 事務所

〒050-0074 室蘭市中島町3丁目27-17
Tel.0143 (83) 7811・Fax.0143 (83) 7812



発行所 自由民主党本部 東京都千代田区千代田1-1-1 電話 東京03(326)2211(代表) 札幌支店011(24) 室蘭市議会議事堂(議事室) 室蘭市議会議事堂(議事室)
(昭和30年6月15日第三種郵便物認可) 自由民主党ホームページ URL http://www.jimn.jp/

室蘭市版 平成27年8月25日(火)発行 号外

子どもたちが未来へ向かって「暮らし続けたい」と思う地域を創りたい

「次代の子どもたちが暮らし続けたいと思う素晴らしい地域を創りたい」と、やむにやまれぬ思いから先の北海道議会議員選挙に立候補し、皆さまの厚いご支援を賜り初当選させていただきました。本当にありがとうございました。

その際、お約束として①「創る」新環境産業の創造②「守る」安心して暮らしたの創造③「繋ぐ」地域ネットワークの創造④「耕す」明日(未来)を拓く人材の創造⑤「輝く」明るい地域の創造」という北海道創生を目指す5つの行動指針を示しました。

少子高齢化による出生率の低下や、東京への一極集中による急激な人口減少は、今や他人事ではありません。室蘭市も含めた北海道は今、大きな転換期に立たされています。産業経済、社会・生活環境、保健・衛生・医療、介護・福祉、教育・文化・スポーツなどあらゆる分野に課題が山積しているのです。

この現実をしっかりと見極め、室蘭をはじめとして「オール北海道」の力を結集し、明るく元気な新しい時代を築いていくにはありませんか。幸い、室蘭にも北海道にも、無限の潜在力と可能性があります。私の新たな挑戦は始まったばかりです。民間企業時代に培った感性・経験・人脈を生かし、皆さまと一緒に頑張り抜きます。どうぞ、温かいご指導・ご協力をお願い申し上げます。

北海道議会議員 千葉 英也

9区支部移動政調会を18市町で開催 地域課題を政策や予算に反映

地域の課題を政策や予算に反映させるための自民党道連の移動政調会が、6月5日から12日にかけて胆振・日高管内の4市14町で開催されました。9区支部からは堀井学支部長、千葉支部長代行をはじめとする役員が出席しました。

首長や団体代表者からは道路や港湾、河川、橋梁などのインフラ整備をはじめとする多岐にわたる要望が出され、千葉道議は「地域の皆さまの期待に沿えるよう、努力を重ねてまいります」と課題解決に向けて精進を誓いました。

7月1日には「人口減少問題」についての勉強会を開き、道総合政策部が国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、策定を目指す「北海道の人口ビジョン・北海道創生総合戦略」の基本的な考え方を説明しました。千葉道議も傍聴し、今後の施策推進の参考にしていました。



高橋道政4期目の審議がスタート 「北海道の未来像」引き出す

第2回定例道議会は6月16日に開会し、23日の本会議では高橋はるみ知事による道政執行方針演説と、平成27年度補正予算案に対する各会派の代表質問が行われました。自民党・道民会議は道政史上初の4期目となる高橋知事が描く北海道の未来像や、公約実現に向けたシナリオなどをいただきました。

<質問項目一覧>

1. 知事の政治姿勢について

- (1) 道政に臨む基本姿勢
- (2) 道産食品の輸出拡大
- (3) 外国人観光客300万人プロジェクト
- (4) エネルギー政策
- (5) 北海道のPR



2. 道政上の諸課題について

- (1) 地域経済の底上げ
- (2) 中小企業・小規模企業等振興条例
- (3) 新しい総合計画
- (4) 広域連携の進め方
- (5) 振興局のあり方
- (6) 次の行財政改革計画
- (7) J R日高線の運行再開
- (8) アジアの環境首都を目指す北海道づくり
- (9) 水素社会の形成
- (10) スポーツの振興
- (11) 危険ドラッグ対策
- (12) 「医療先進地」北海道づくり
- (13) 聴覚に障がいがある方に対する支援
- (14) 農業・農村振興推進計画とチャレンジ農業の推進
- (15) ロシア200海里水域におけるサケ・マス流し網漁
- (16) T A C削減に伴う対策
- (17) 異常気象によるホタテ被害対策
- (18) 漁業における新規就業者の受け入れ対策



3. 教育問題について

- (1) 新しい教育委員会制度
- (2) 教育上の諸課題に対する教育長の認識

4. 公安問題について

- (1) 特殊詐欺対策

教育・経済産業の課題、 知事公約など取り上げ高い評価

ちば英也道議は、6月から7月にかけて開かれた平成27年第2回定例道議会において、当選後初めて予算特別委員会と総合政策常任委員会で質問に立ちました。予算特別委員会では学校教育、経済産業、総合政策常任委員会では知事の公約などについて鋭い質問を連発しました。その結果、知事や担当役職者らから前向きな答弁を引き出し、同僚・先輩議員から高い評価を受けました。主な質問内容と答弁は次の通りです。

予算特別委員会(7月7日) 教育委員会審査

<質問概要>

1. 子ども相談支援センター



- ①具体的な取り組み②電話相談の実績③支援策の充実④カウンセラー問題の解決支援⑤カウンセラーなどの確保

2. 特別支援学校の整備

①道央圏における進学希望者への対応②受け入れ体制の確保③日高管内の進学希望者への対応④苫小牧市内の小中学校特別支援学級の在籍児童生徒数⑤平取養護学校に在籍する児童生徒数⑥苫小牧市への義務併置校設置⑦高等支援学校の整備

<答弁概要>

1. 子ども相談支援センター

①これまで道立教育研究所で実施していたじめ・不登校・体罰などに関する電話など24時間対応の相談事業を、8月から本庁開設の子ども相談支援センターに移し、よりきめ細やかな支援を進

める②この3年間の電話相談は24年度2071件、25年度1913件、26年度1712件
③相談内容に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどを派遣して問題解決を図る。相談内容が児童生徒の生命や心身などに重大な被害が生じる場合は、関係機関からなる「子ども相談支援対策プロジェクトチーム」を招集、迅速に対応する④スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用事業により迅速に対応する⑤国の動向を注視しつつ、配置の拡充に努める



2. 特別支援学校の整備

①28年度は27年度に臨時に増やした学級を解消した上、閉校した拓北高校の6間口定員48人を新設校として整備する。29年度も札幌市と連携し、市南部に7間口56人定員の新設校を開校するなど間口確保に努める②高等支援学校を道内6圏域ごとに整備し、進学希望者に見合う間口を確保したい③生徒の進学動向や今後の推移、地域の実情を踏まえて平取養護学校も含めた高等部のあり方を検討する④27年5月現在で小学校26人、中学校5人の合計31人⑤27年5月現在、全在籍児童生徒74人のうち、苫小牧市に保護者が居住している児童生徒数は62人⑥苫小牧市など関係市町村と連携して検討を進めたい⑦生徒の障がいの状況や本人・保護者のニーズを把握、必要な受け入れ体制を整備する



総合政策常任委員会(7月9日)

<質問概要>

1. 知事公約の推進管理

①これまでの取り組みとの相違②新・北海道ビジョン推進方針③公約の推進管理④公約の実現

<答弁概要>

①アクションプランを作成し公約達成を目指してきた。「新・北海道ビジョン推進方針」においては、政策の具体的進め方や手順などについて可能な限り取り組むこととしている②政策の展開方向は、個別計画の策定や見直し、具体的な事業など、今後4年間を見通した政策や手順など実効性の高い取り組みを進める考えである③計画における取り組みの進捗状況や、政策評価の実施結果を確認するようにして実施したい

飲酒運転事故の根絶に向けて 自民党が道条例制定へ全力!

道議会自民党の検討会は6月25日、道議会内で飲酒運転による交通事故被害者の遺族へのヒアリングを実施しました。同検討会は、昨年7月に小樽市銭函で海水浴帰りの女性3人が死亡した事故を受けて設立されました。道内在住の遺族らは、「飲酒運転の恐れがある場合の警察への通報努力」「飲酒運転検挙者への指導の義務化」などを盛り込んだ条例制定を求める要望書を提出しました。千葉道議も「悲惨な事故がこれ以上起きないように、条例の早期制定に全力で取り組んでいきたい」と飲酒運転根絶に意欲を示しました。



▲遺族の方々と意見交換